

平成13年10月31日

平成14年3月期中間個別決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

平成14年3月期中間個別決算につきまして概要をご説明させていただきます。

1、 個別決算概要について

[売上は期初予想に対し0.7%増]

●当社の上半期の売上高は394億8千1百万円となり、期初予想391億9千5百万円に対し2億8千6百万円増で、0.7%の増収となりました。しかし前年同期比では2.9%の減収となりました。これは、トヨタ自動車(株)およびトヨタグループ向けが1千7百万円の微増、またスズキ(株)も1億1千1百万円増加するなど堅調に売上が推移した得意先があったものの、主に三菱自動車工業(株)向けの売上が14億4千万円減少したことが影響し、減収となりました。

[経常利益は期初予想に対し84.3%増]

●利益につきましては、営業利益4億9千7百万円と期初予想に対し1億1千1百万円増で、28.8%の増益、また経常利益は4億2千2百万円と期初予想に対し1億9千3百万円増で、84.3%の増益とすることができました。これは主として全社をあげて徹底した合理化活動によるもので、生産品目を主力5製品に特化し経営資源を集中させることによる高品質・高機能・低コストの製品づくりに取り組んだほか、標準設計によってコストの大幅削減に取り組むなど原価低減に努めたことなどにより、期初予想に対し1億3千4百万円増の9億3千1百万円の合理化効果をあげました。またこの他、営業外収益として北米生産子会社のSWマニュファクチャリング(株)への設備売却益増5千6百万円などがありました。

[前年同期比では減益]

●しかしながら前年同期比では、売上減による影響2億3千9百万円のほか、退職給付費用の増加2億5千2百万円、ベスアップの影響、売価変動などにより、営業利益は4億5千3百万円減少し、47.7%の減益、また、経常利益も4億4千1百万円減少し、51.1%の減益となりました。

●個別中間期実績

上段当中間期・下段前年同期

- ① 売上高：
394億8千1百万円
406億7千5百万円
(△11億9千4百万円)
(前年同期比2.9%減)
- ② 営業利益：
4億9千7百万円
9億5千1百万円
(△4億5千3百万円)
(前年同期比47.7%減)
- ③ 経常利益：
4億2千2百万円
8億6千3百万円
(△4億4千1百万円)
(前年同期比51.1%減)
- ④ 特別利益：
6億8千1百万円
37億3千1百万円
(△30億5千万円)
*参考：固定資産売却益
6億7千7百万円
*参考：退職給付信託設定益
△37億3千1百万円
- ⑤ 特別損失
14億9百万円
109億2千5百万円
(△95億1千5百万円)
*参考：固定資産売却損
6億7千6百万円
*参考：退職給付会計基準変更
時差異信託分
△100億円
- ⑥ 中間(当期)純利益：
△1億6千6百万円
△36億4千万円

[最終損益は前年△36億4千万円円から

△1億6千6百万円に改善]

●最終損益につきましては、退職給付費用62億6千8百万円減と東京デポ（元東京工場）の土地一部売却による固定資産売却益など特別利益6億8千1百万円がありました。が、財務体質強化のため固定資産除却損として6億7千6百万円、製品不具合に対する補償費として4億円、退職給付費用として3億3千万円などにより、特別損失14億9百万円を計上いたしました。このため、前年同期の36億4千万円の間接損失に対して1億6千6百万円の間接損失となりました。

2、上期の取り組みについて：

●弊社では厳しい経営環境のなか、全社を挙げて収支改善活動と業務改革に取り組むとともに、中期経営計画（99～03）を基に構造改革を着実に進め、企業体質の強化をはかりました。上期に実施した主な取り組みは次の通りです。

1、事業のグローバル展開の推進

①シロキタイランド設立の決定

・アジアでの生産・供給体制を整え、世界4極市場対応を進めました。

②ブローゼ社（ドイツ）との協業推進

・「低コスト化」を大きなテーマに、現在両社で協業効果が出る製品の開発を売り・造り・買いの角度から検討しています。

③SWMジョージア（米）でのドアサッシの生産準備

・来年1月より納入開始、北米での生産品目を拡大します。

2、生產品目・生産拠点の見直し

①生產品目の主力5製品に特化

・経営資源の集中化により、高品質・高機能・低コストの世界NO.1製品づくりを進めるとともに、5大製品の世界4極市場への対応をはかりました。

②九州シロキ（北九州市）の設立

・8月に設立、九州地区での受注拡大に対応するとともに、国内生産拠点の最適化をはかりました。

*参考：

●トヨタグループ向け

265億2千3百万円

265億5百万円

（1千7百万円増）

（前年同期比0.1%増）

トヨタ自 166億6千万円

トヨタG 98億6千2百万円

同納入先別

① 高島屋日発工業（株）

7億7千1百万円増

② アラコ（株）

4億7千4百万円増

③ トヨタ自動車（株）

2億2百万円増

●合理化（収支改善）活動の成果

9億3千1百万円

*

期初に対して1億3千4百万円の合理化効果増

●設備投資（百万円）（前年同期）

上期実績

1,558（1,311）

通期予想

3,400（3,633）

●減価償却費

上期実績

2,283（2,189）

通期予想

4,875（4,529）

●当社5大製品

①シートクライナ・シートアジャスタ

②ウインドレギュレタ

③ドアサッシ

④ロック・ヒンジ

⑤モールディング

3、利益体質への転換と定着

① 5大製品別の戦略的目標原価達成の取り組み実施

- ・標準設計によるコスト削減を推進しました
(部品のコア部分を標準化し、得意先別にはコアをベースにオプション対応し、30%コストダウンをめざします)。

4、ITネットの開発・構築

① 基幹コンピュータシステムと社内ネットワークの構築

- ・取引先のIT化に対応するとともに、スピーディで効率的な業務体制の構築

5、その他

① 取締役を4名削減し、16名体制に

3、通期業績予想について

[昨期34億7百万円の損失から2億9千8百万円の純利益に]

●通期業績予想につきましては、米国の同時テロの影響により世界的な景気と企業収益の悪化が懸念され、依然厳しい経営環境が予想されます。しかしながら下期は営業努力と拡販活動により下期売上を前年比3億2千8百万円増の417億5百万円を予想しています。しかしながら、通期売上高は811億8千6百万円で前年実績に対し1.1%の減収を予想しています。通期営業利益につきましては、前年比26.0%減の15億5千8百万円、また通期経常利益も32.5%減の13億4千8百万円を予想しています。最終損益につきましては、退職給付費用62億6千8百万円減などによる特別損益の改善により通期で当期純利益2億9千8百万円を予想しています。

[期末配当予想4円から3円に]

●期末利益配当金予想につきましては、期初の予想期末配当金4円(平成13年5月30日発表)に対し、事業環境ならびに中長期的な企業体質の強化などを総合的に勘案し、3円とさせていただきます(前期末4円)。これにより平成14年3月期の1株当たりの年間配当金は3円で、前期に比べ1円減額の予想となります。

●個別通期予想

(上段予想、下段前期実績)

①売上高:

811億8千6百万円

820億5千2百万円

(前年同期比1.1%減)

②営業利益:

15億5千8百万円

21億5百万円

(前年同期比26.0%減)

③経常利益:

13億4千8百万円

19億9千8百万円

(前年同期比32.5%減)

④当期純利益:

2億9千8百万円

△34億7百万円